

混合交通を観察する  
**DOCUMENT**  
series—225  
**Eye**

(財) 交通事故総合分析センターの資料によると、平成19年に発生した歩行中の交通事故死傷者は7万5549人。そのうち65歳以上の高齢者は2万1992人で、負傷者では全体の28・1%、死者にいたっては69・2%を占めている。今回は、信号機のある交差点で、高齢

**WHY**  
高齢者は横断歩道を渡る際、左右確認を行っているか?



背筋を伸ばして歩いている高齢者が多かった

- 観察場所 / 東京都北区王子4丁目付近
- 観察日 / 10月10日(金曜日)
- 天候 / 晴れ
- 観察時間 / 15:30~17:00
- 観察者 / 4名

● 信号機のある交差点で高齢歩行者の左右確認状況を観察する  
**横断歩道を渡った高齢者101人中**  
**左右確認を行ったのは10人(9.9%)**

**WATCHING**  
右左折で接近してくるクルマに気づきにくい  
観察場所は東京都北区王子付近の信号機のある交差点。ここは北本通り(国道

者が道路を横断する際に左右の安全確認を行っているか観察した。

観察時、距離の長い北本通りの横断歩道では歩行者用信号機が青になってから赤に変わるまでの時間は約30秒だった。20~50歳代と思われる歩行者の平均横断

時間を約14秒。一方、高齢者の平均横断時間は約21秒だった。高齢者の最長は15秒、最長は杖をついていた女性の32秒で、渡りきる前に赤信号になってしまった。大きく背中が曲がり前かがみになって歩いていたり、歩行の補助に手押し車を押している高齢者は、他の歩行者から遅れがちだった。

122号)と都道が交差しており、交差点には歩行者用信号機が設けられていた。北本通りは片側3車線で道路の幅員が広く、横断する距離が長くなっている。1時間半の観察で、この交差点の横断歩道を渡った65歳以上と思われる高齢者は101人(男性44人・女性57人)。横断する前に左右の安全確認を行ったのは101人中10人だった。ほとんどは前方のみを注視しながら歩いていた。

この交差点では、歩行者用信号機が青でも右左折するクルマが横断歩道上を通る。中には歩行者の目の前をかすめて通過するクルマも見かけた。高齢者は、これらのクルマに気づいていないように見えた。

背筋を伸ばし姿勢の良い高齢者が多かったが、姿勢が良い人でも横断歩道の中央を過ぎたあたりで歩く速度が低下するか、立ち止まる人も見られた。信号が青点滅になると、高齢者の多くは横断を開始しなかった。

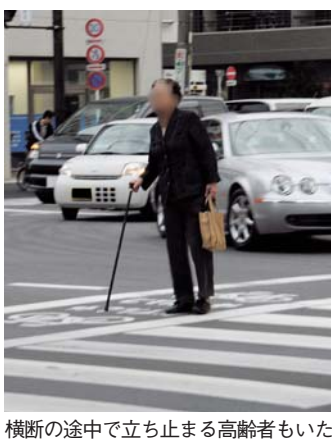
また、高齢者の歩く速度はやや遅めの傾向がみられた。青信号の時に渡り始めるも、渡り終わる前に赤信号になってしまいうちももある。高齢者の場合は、青信号の途中で横断を開始するよりも、次の青まで待つ余裕を持ったほうが安全である。



足元を気にしながら、うつむき加減で歩く高齢者

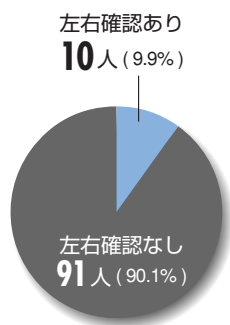
**PROPOSE**  
しっかり顔を動かして左右の安全確認を

ほとんどの高齢者は信号を守っていたが、横断する前に左右の安全確認は行っていないかった。今回観察した交差点のようには、歩行者用信号機が青でも右左折するクルマが接近してくる場合がある。高齢者の場合は、身体機能の低下によって視野が狭くなっていたり、うつむき加減で歩いてしまったため、こうしたクルマに気づきにくいと考えられる。そのため、目の前の信号を見るだけでなく、しっかりと顔を動かして左右の安全を確認することが重要である。



横断の途中で立ち止まる高齢者もいた

● 信号機のある交差点での高齢歩行者の左右確認状況



※ 高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による

	左右確認あり(○)	左右確認なし(×)	小計
青信号	8	86	94 (93.1%)
青点滅	1	5	6 (5.9%)
赤信号	1	0	1 (1.0%)
小計	10 (9.9%)	91 (90.1%)	101

周囲にいる歩行者は、高齢者が横断しようとしている場合、その高齢者が安全に渡れるようサポートしてほしい。ドライバーは、高齢者の行動特性を認識し、高齢者に配慮した運転をしてほしい。

高齢者の皆さまの交通安全に役立つ情報をホームページで紹介しています



Hondaのホームページでは、「シニアの皆さまへ 交通安全情報」というコーナーで、道路を横断する時のポイントなど、高齢者の皆さまが事故にあわないために役立つ情報を紹介しています。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/senior/>